

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	「要介護状態になっても地域とのつながりを絶やさない」「地域の中の施設」をコンセプトにしています。介護が必要になった人が家族や地域とのつながりを保ちながら、生活を送れるように「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態を本人、家族の希望に合わせて柔軟に組み合わせ利用できます。「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用していてもいつも顔なじみのスタッフがケアを行います。少人数登録制のため家庭的な雰囲気での他の利用者・スタッフと楽しく過ごすことができ認知症の方も不安なく過ごすことができます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護撰田屋	管理者	佐藤 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	事業所自己評価について改善計画を継続し、今回出来ていない所に重点を置き目標を達成できるように努める。	出来ている事、出来ていないことを表面化し出来ていないところを具体化する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の確認について各自で評価したことをまとめミーティング時に話し合った。 出来ている事、出来ていないことを表面化し出来ていないところを具体化する必要がある。 前年度よりあまりできていないという意見が全体的に多かった。 改善計画1つ1つ出来るように意識し職務に努めた。 まだまだ不十分な事も多いのではないか。 具体的な長期目標・短期目標を定める。目標達成の基準(ゴール)を決める。 事業所自己評価の改善計画は継続で良いと思う。 昼礼は行うように努力していた 	<ul style="list-style-type: none"> 個別サービス計画に沿ったケア援助を1つ1つ確実にを行い、評価・実施していく。 日々の関わりの中で、言葉だけでなく、ご利用者の小さなサインに気づいたり、言葉にならない隠れた真意を読み取るコミュニケーション力をつけ、ご利用者皆様が笑顔で暮らし続けられるようにお手伝いしていく。(ご利用者の「～したい」という思いや「以前の暮らし」等からその人の背景をしっかりと読み取りながら、日々のアクティブ活動やケアに活かしていく)

			が、時間がなくノートにて共有していた時もあった。その為、初期目標の確認ができていないことがあった。	
B. 事業所の しつらえ・環境	地域やボランティア等との連携を図り、利用者や家族、また地域の方に季節や小規模の雰囲気を感じられるような内容を継続していく。	コロナ禍の中で今まで通りの事ができなかったが、一部センター外のボランティアが継続されており良かった。又、季節に合った飾り作りなどご利用者に楽しんで頂く事ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中今まで通りの事ができなかったが、センター外の花壇ボランティアが継続されていて良かった。 来園者、地域の方への挨拶や対応は丁寧に行っていた。 ・コロナ対応の中で出来る事を行い、ご利用者に楽しんで頂いている。 ・玄関・フロア等の飾りを季節で替えている。利用者と話題にすることでさらに季節感を感じて頂けるようにする。 ・レクの時間等で季節に合った飾り作りなどをしてよかった。また利用者が見える所に飾っていたのが良かった。 	新しい生活様式の中で季節感を取り入れた飾りや雰囲気づくりを行いセンター内の環境を充実させていく。 (地域ボランティアとの関わりを継続)
C. 事業所と地域のかかわり	地域のボランティアに参加してもらい、情報を共有する。事業所としても講義や広報誌などで情報の発信を継続していく。	事業所と地域の関わりが取りにくいコロナ禍でも、可能な範囲で取り組んでいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇ボランティアに協力して頂いている。 ・地域の方や来園された方と挨拶だけではなく足を止めてお話をさせて頂いた。 ・講義は行っていなかったが広報誌を発行することが出来た。 ・コロナ以前の取り組みはよくでき 	感染症により地域との関わりが少ない今だからこそ、基本的な地域の方との関係を挨拶や広報誌等を通して情報提供していく。

			<p>ていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも可能な範囲で取り組んでいる。 ・広報誌が活用できている。 ・事業所と地域の関わりが取りにくい。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	地域のイベントや活動等に出来る限り参加し、利用者と地域との関りを繋げていく。	イベント中止の中、計画を実践する事は難しく、地域との関わりを持つ機会が少なかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント中止の中、計画を実践する事は難しかった。 ・イベントが出来ない分、本を充実させるなどを行ってはどうか。 ・図書館から本を借りることは社会とのつながりにならないか。 ・コロナ禍ではあるが清掃活動に参加できた。 ・関わりを持つ機会が少なかった。 	新しい生活様式を取り入れ、利用者と地域との関わり方を再度作り上げていく。 (イベントへの関わり方等)
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で議題に上がった内容はできるだけ迅速に対応し、必要があれば地域と共に課題解決に向け取り組んで行く	運営推進会議を活かした取り組みを、資料を通し確認した。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を活かした取り組みを、資料を通し確認した。 ・運営推進会議で地域の方の事例検討があり話し合えたことは良かった。 ・運営推進会議を活かして情報交換を行い緊急時の対応対策をしっかりと話し合う。 ・運営推進会議の中止もあり計画的に実践できなかった。 	職員一人一人が運営推進会議の内容を理解し、運営推進会議を通して地域の方と話し合える環境を継続して作り上げていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>防災・災害対策計画をもとに地域と事業所が一带となって取り組み協力体制を継続していく。 訓練の際は家族にも連絡、報告する。</p>	<p>コロナ過で地域との訓練が行われず、雰囲気を感じる事ができなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る範囲で行われていた。 ・コロナ過で地域との訓練が行われず、雰囲気を感じる事ができなかった。 ・職員間での訓練は行えたが地域との訓練はできなかった。 ・机上ではあったがシュミレーションをすることで災害に備えることが出来た。 ・防災災害は地域との取り組みが大事なので事業所も職員 1 人 1 人が計画を知っておくことが大切。 	<p>今後も防災・災害対策計画をもとに地域と事業所が一带となって取り組み協力体制を継続していく。 (訓練の際は家族にも連絡、報告。地域住民の方にも参加をお願いする)</p>
----------------------------	---	--	--	--